

公室ゾーンにおける整理・収納空間に関する研究（梗概）

上和田 茂

—— 一時的収納過程の概念とその発生実態 ——

1. 研究の目的

わが国の住宅における収納空間は、これまで、私室付置型のものに重きがおかれ、公室ゾーンにおけるそれは軽視されてきたきらいがある。

しかし、今日、居間をはじめとする公室空間の充実と相まって、そこで行われる生活行為およびそれに伴う生活用具用品は質的多様化と量的増大の傾向にあり、ひいては、公室ゾーンにおける整理・収納空間の計画はなおざりにできない重要な問題となっている。

多くの場合、生活用具用品の整理・収納過程には幾つかの段階性が認められる。本研究は、その初源的段階の過程で、しかも、公室空間において最も現れやすい「一時的収納過程」に着目し、それを基礎に、公室ゾーンにおける整理・収納空間の具備すべき機能的条件とその空間像を明らかにすることを最終的な目的とする。本報告では、これまであまり注目されることのなかった「一時的収納過程」なる現象について若干の概念化を試みると共に、その発生実態を考察し、公室ゾーンにおける整理・収納空間の在り方を追求するにあたって、当過程に注目すべきことの必要性を論じる。

また、これらの問題を論じることを通じて、多様な生活行為に対応すべき居間を中心とする公室空間の構成の在り方に一つの材料を提供したいと考えている。

2. 研究の方法

2. 1 一時的収納過程の定義

一時的収納過程とは「何らかの理由によって本来の収納場所に収納されことなく、使用場所あるいはその直近に放置された物を、他の行為の展開にとっての支障にならないように、いずれかの場所に暫定的に保管・収納しておく現象過程」のことを指しており、その一般的現象形態は、半整理・半整頓で、出し放しに近い状態であり、収納過程全体からみれば、最も素朴で初源的段階の収納過程と位置付けることができる。

この一時的収納過程は、単に居住者の怠慢によって引き起こされる場合も少なくないが、むしろ、生活行為全体の円滑な遂行と秩序化、および物の維持・管理を図る

上で発生する必然的とも言える現象である。換言すれば、居住者の生活行為の流れと、それに利用される物の流れには、それぞれ相対的な独自性があり、一時的収納過程は、その両者の間に生じる時間的・空間的ずれの暫定的な解消過程であると考えることができる。

ところで、一時的収納過程は使用でも収納でもない中間的な状態であるので、単なる「放置」と見分けがつけにくく、両者は往々にして混同されやすい。しかし、「放置」は、片付けようとする意志がなく使用後そのままにしておかれる現象であるが、「一時的収納」は少なくとも片付けようとする意志が働き、わずかであっても物を移動する行為が伴う点に大きな相違がある。

また、「一時的」（あるいは暫定的）の絶対時間が問題であるが、これは当該の生活行為および物の種類によって様々であり、一概には決め難い。ただし、その多くは日サイクル、長くて週サイクルの範囲内におさまるものと理解している。

2. 2 一時的収納過程が発生する諸局面

一時的収納過程の具体的な発生局面としては次のような場合が考えられる。

① 使用頻度が高く、使用サイクルが短いために、常に整理整頓された高度な収納を行うことが容易でない場合。つまり物を出し放しにしておき、すぐに使える状態にしておくことそのものに意義があると言え、小型用具品がその対象となりやすい。

② 供給、使用、収納、再生、廃棄という、家庭内の物の循環過程における各過程間に何らかの処理作業が必要であり、それに着手するまで未処理品を臨時的に収納あるいは集結しておく場合。以下がその代表的なケースである。

- i) 使用前の準備、集結
- ii) 使用後の仕分け、手入れ、梱包、移動などの後片付け
- iii) 再生作業前、廃棄前、外注前の集結
- iv) 購入品、到来物、郵送物などの荷解き、仕分け

③ 上記の点と関連して、諸作業（特に家事）は逐次的ではなく、同種の「仕事の単位」に従って周期的かつ合理的に遂行されることが多いが、各単位間のタイム

表－1 調査概要

	調査時期	調査対象住戸	調査戸数	調査方法
調査1	1983年 7、8月	集合住宅：福岡市・生の松原サンハイツ、春日サンハイツ（公団分譲）	3LDK：40戸 4LDK：30戸	面接聞き取り および観察調査
		戸建て住宅：九州産業大学在学生の実家で 居間確立型の戸建て住宅	20戸	留置アンケート
調査2	1985年 7、8月	集合住宅：福岡市・生の松原サンハイツ、パークハイツ平尾山荘（公団分譲）春日サンハイツ、北九州市・サンハイツ枝光	3LDK：40戸 4LDK：20戸	面接聞き取り および観察調査
		戸建て住宅：九州産業大学在学生の実家で 居間確立型の戸建て住宅	56戸	留置アンケート
調査3	1986年 10月	戸建て住宅：福岡県古賀町・栄泉日吉台	4LDK：154戸 （すべて2階建て）	留置アンケート および観察調査

ラグ中に一時的収納が発生する。

④ 不意の来客があった時などの緊急避難的収納。

2. 3 一時的収納過程に着目する理由

もとより、公室ゾーンにおける整理・収納空間の問題は、一時的収納だけではなく定常的な収納を含めて総体的に論じるべきであろう。しかし、既往研究ではあまりにも定常的な収納にのみ目が向けられている。しかも、その基本的な考え方は、ある住宅条件を前提として、使用者側からみた物の分類軸（用途、使用者、使用場所、使用頻度、使用サイクルなど）と、物自身の性格からみた分類軸（形態、体積、重量、材質、個数など）とを重ねることによって、収納空間の在り方が一義的に決定しうることのような考え方が主流である。

ところが、公室ゾーンのような動的な活動空間においては、同時に物の流れも早く、収納空間の在り方を考える際にも動態的な過程に即した収納過程の概念化が必要とされるのである。本来ならば、使用と収納との間に何段階かの物の状態を措定し、それに基づく分析がなされるべきであるが、この段階性を現実の生活過程に即して細かく区分するのは容易ではない。そこで、ここでは、使用と収納の間に存在する中間的な収納過程をすべて一時的収納過程として一括して取り扱うことにする。

ところで、この現象は必ずしも公室空間に固有のものではない。しかし、公室は家族全員の共有空間で、かつそこでの生活行為の内容も多様で、次々に異なる行為が営まれるため、先行行為の終了後、後行行為の円滑な展開のために、すばやく片付けておかねばならない必要度が、私室に比較して格段に高い。舞台における場面転換になぞらえると、その頻度と速度において、公室は私室より際立っていると言えよう。

なお、公室ゾーンとは、L、DK、及びこれに連続する接客室を核として構成される領域として取り扱う。

3. 調査概要

①公室ゾーンにおける生活用具用品の収納実態、②諸生活行為の流れからみた一時的収納の発生過程とその要因、③一時的収納過程の空間的諸形態を明らかにするために、集合住宅（すべてフラットでメゾネットを含まず）および戸建て住宅を対象に、表－1に示すように計3回の調査を行った。

4. 公室ゾーンにおける生活用具用品の収納実態

表－2は、調査1に示した4LDKの分譲集合住宅（図－1の平面図参照）と戸建て住宅を対象に、あらかじめ指定した生活用具用品の保管・収納場所を尋ねて得た結果である。公室ゾーンに出現率が高いものは、集合住宅と戸建て住宅とで多少の違いはあるが、文具・家庭事務用品、書籍・ゲーム等の教養娯楽用品、救急箱・つめきり等の保健整容用具、アイロン・裁縫箱等の衣服更正関係の家事用具、それに諸日用雑貨類である。

注目すべきは、上記の用具用品の多くがLおよびDK内、あるいはLに隣接する和室の床上および家具上に露出状態で、つまり出し放しの状態で置かれていることである。また、表－3は、観察調査から得られたもので、先述の指定調査で明らかになったもの以外の露出散乱物



写真－1 居間の家具上に散在する用具用品

表-2 公私室ゾーン別生活用具用品の収納場所と収納状態

収納場所 収納物の品目		戸建て住宅					集合住宅								
		公私室ゾーニング				LDKでの 露出の有無	公私室ゾーニング							LDKでの 露出の有無	
		公	私	公私 重複	中間		公			私					物入 その他
							D K	L	南 和室	北 和室	北 洋室	中 洋室			
寝具・衣 物	座布団	—	—	—	—		0	1	27	2	0	0	0		
	下着（世帯主）	—	—	—	—		0	1	3	13	2	8	3		
	かご（日常着入り）	—	—	—	—	○	0	0	0	7	0	1	4		
文具・家 庭事務	ハサミ ホツチキス	15	3	1	0	○	12	7	1	3	2	4	1	○	
	のり セロテープ	15	3	1	0	○	10	7	0	3	3	6	1	○	
	マジック	14	4	1	0	○	13	7	0	3	2	4	1	○	
	書道用具	12	6	0	0		1	6	5	4	3	9	1		
	家計簿	7	7	0	0		12	8	1	0	0	1	1		
	電卓	12	6	0	0	○	5	11	0	0	2	3	2		
	便せん・封筒	12	6	0	0	○	10	11	0	4	0	4	1	○	
	印かん・朱肉	12	4	0	0		—	—	—	—	—	—	—		
	貯金通帳	7	8	0	0		—	—	—	—	—	—	—		
	ゲーム類	7	4	0	0		0	4	5	3	3	1	0	○	
教養・趣味・娯 楽	スポーツ用具	1	2	0	9		0	0	0	5	6	3	9	○	
	カメラ	5	12	0	0		0	7	3	3	5	8	2		
	レコード	3	13	2	0		—	—	—	—	—	—	—		
	辞書	—	—	—	—		1	14	0	5	2	7	0		
	地図	—	—	—	—		2	13	0	5	2	5	0		
	料理本	—	—	—	—		12	8	0	2	1	4	2		
	旅行カバン（夫婦）	2	15	2	0		0	0	8	13	0	9	0		
	救急箱	18	3	1	0	○	4	8	7	3	1	3	4	○	
	水栓	9	4	1	0	○	3	0	2	2	1	5	8		
	耳かき・爪切り	19	2	0	0	○	11	16	0	2	0	1	0	○	
保 健・整 容	ドライヤー	4	9	0	6	○	—	—	—	—	—	—	—		
	化粧品	3	15	1	1	○	—	—	—	—	—	—	—	○	
	バスタオル	2	6	1	11		0	0	3	4	1	1	21		
	重箱	—	—	—	—		16	0	3	2	0	0	6	○	
掃 除	掃除機	3	10	5	2	○	2	0	2	3	4	4	15	○	
	ホーキ	6	3	2	7		5	0	1	0	1	1	19	○	
衣 服 更 生	アイロン・アイロン台	6	10	4	0	○	0	3	13	5	1	7	1	○	
	乾燥箱	7	9	4	0	○	1	5	11	6	1	6	0	○	
	ミシン	3	12	3	0		1	0	8	5	2	11	3	○	
雑 貨	懐中電燈	16	1	0	3	○	6	0	2	2	0	3	14		
	包装用ヒモ	10	3	2	0		—	—	—	—	—	—	—		
	蚊取り線香	11	6	1	1	○	1	2	2	4	1	1	8	○	
	時刻表	14	2	0	0		—	—	—	—	—	—	—		
	電話帳	14	0	0	6	○	—	—	—	—	—	—	—	○	
	ローソク	9	7	4	0		—	—	—	—	—	—	—		
古 い 物 ・ 再 活 用 品	大工道具	0	1	1	15		0	0	1	1	1	1	26		
	古新聞・雑誌	7	3	0	7	○	3	1	2	0	2	1	17	○	
	空ビン	—	—	—	—	○	1	0	0	0	1	0	24	○	
	紙袋	10	2	0	4	○	9	0	3	1	0	2	15	○	
	郵便物	8	9	0	0	○	—	—	—	—	—	—	—	○	
	年賀状	9	9	0	0	○	2	7	2	6	2	7	2		
買 い お き 品	アルバム	6	13	0	1		—	—	—	—	—	—	—		
	未使用花器	6	3	1	2	○	—	—	—	—	—	—	—		
	マッチの買い置き	12	0	0	1	○	—	—	—	—	—	—	—		
	ゴミ袋	8	9	0	0		—	—	—	—	—	—	—		
	ティッシュペーパー	2	10	1	5	○	3	0	1	1	1	0	24	○	
	トイレットペーパー	1	6	2	9		—	—	—	—	—	—	—		
暖 冷 房	石けん	2	7	2	8		—	—	—	—	—	—	—		
	扇風機	—	—	—	—		0	1	6	7	1	6	8		
	コタツ	—	—	—	—		0	0	13	7	2	3	4		
ストーブ	—	—	—	—		0	0	7	4	3	2	12			

*1 夫婦用又は共用品
について調査した

*2 数値無記入のものは
未調査である

*3 戸建て住宅はプランが各々異なる
ので室用途によって分類した。

表-3 LDK内に露出して置かれている
生活用具用品

場所	家具上	床上
	DK (食堂)	DK (食堂)
戸 建 住 宅	船着 酒類 ゴム カン	メモ用紙 化粧品 カゴ 空き箱
	脱いだ衣服 食器 調味料 メモ用紙 手帳 クリップ 新聞 洋酒 清酒 びげそり たばこ かぎ	まくら ボット 物差し 船着 筆記用具 ハンカチ 本 テープ 体温計 腕時計 小物入れ ライター
集 合 住 宅	オルゴール 船着削り 筆入れ 便箋 新聞 買物袋 クリーナー 小型テレビ 空カン 空き箱 もらい物	船着立て 物差し メモ用紙 ノート ボール 小銭入れ 編み棒 ラジカセ 木箱 ジュース ゴミ袋
	脱いだ衣服 書類 船着削り バッグ うちわ ラジカセ ヘッドホン 本 地球儀 新聞 マッチ 腕時計 カレンダー たばこ ライター 名刺 メトロノーム 取り込んだ洗濯物	脱いだ衣服 タッパ 書類 広告 おもちゃ ギター レコード 空き箱 本 ラジオ ヘッドホン テープ 鳥かご 小物入れ 腕時計 かご 風呂 バッグ 買物袋

注：L、DK中の飾り物、およびDK中の台所用品・飲食品は除く

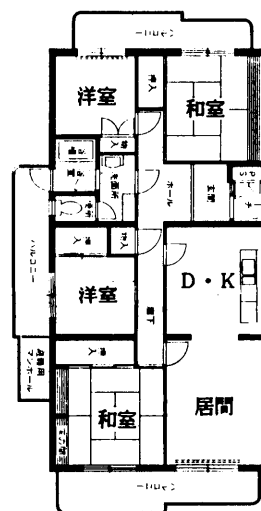


図-1 調査対象住戸プラン（分譲集合住宅）

を場所別に列記したものである。これによると、L内には、洗濯物、脱ぎ捨てた衣服、空箱、バッグ類等の身の回り品、玩具、体温計、ドライヤー、シェーバー、物差し、ほうき等々、多種多様の用具用品が露出散乱している、また、DK内においても同様である。

これら室内に露出して置かれている物は、使用後の単

なる放置に過ぎないものが多い。特に、床の上、テーブルの上にある物はその類が多い。しかし一方、意識的な一時的収納過程にあるものも多く、中でも文具・家庭事務用品に典型的にみられるように、使用頻度・サイクルが高いもので、かつテーブル以外の家具上に置かれている物は大半がこれに該当するとみてよい。また、これら

の物に対しては、もともと収納場所がきちんと与えられていないことが多いので、このような状態がむしろ常態になっており、L内では飾り物の間に無数に混在している。(写真－1 参照)

一方、放置であっても、全く無意味に放置されているものばかりではなく、すぐにまた使用の可能性があってそのままにされておく場合も少なくない。そのような曖昧な状態を含めて、これらのものは、全く目にふれないようにきちんと収納してしまうよりも、むしろ出し放しに近い軽い収納状態にしておき、常に手早く使用できるようにしておくことが要求されるものである。この意味では、これらの物に適切な収納空間をあてがうのはむずかしい面があり、従来これに対する十分な認識も、また空間的対応もなされてこなかったのはこのことに起因していると言えよう。

5. 生活行為の流れからみた一時的収納の発生過程

一時的収納過程を明確に把握することができる以下の項目について、諸生活過程における一時的収納の発生過程を明らかにする。

- ① 衣服再生・更生家事作業における一時的収納
- ② 夫婦の更衣および衣服の収納のされ方からみた一時的収納
- ③ 居間・食堂(DK)内の行為に伴う一時的収納
- ④ 子供の生活行為における一時的収納

5. 1 分析方法

3章で示したように、調査は戸建て住宅(調査3:すべて2階建て)と集合住宅(調査2:分譲・フラット)の両者について行ったが、本報では、紙面の都合と以下の理由から、戸建て住宅の場合を中心に報告を行い、集合住宅については必要に応じてふれることにする。理由の一つは、一時的収納の発生過程の基本的メカニズムは、戸建てと集合のいかんにかかわらずほぼ共通であること。もう一つの理由は、2階建ての戸建て住宅では、おおむね1階が公室ゾーン、2階が私室ゾーンと公私の分離がある程度明確であることから、公室ゾーン特有の問題を把握しやすいことである。

従って、特に断りのない本文中のデータはすべて戸建て住宅のものである。表－4に調査対象住戸の概要を示す。

表－4 調査対象住戸の概要

住戸型	1階部分の室構成	戸数
* LDK+4居室 (4LDK)	LDK+和室(床の間付き)	50戸
	LDK+和室(床の間付き)+和室	104戸

* L・DK、LD・K、L・D・Kの3タイプがある

また、予備調査により、①一時的収納の発生度合いは、小さな子供がいるか否かに大きな影響を受けること、②発生位置・場所は、家庭内の諸雑物が集まりやすい主寝室が1階と2階のいずれにあるかによって異なる、ことが把握されている。従って、データの表示およびその分析にあたっては、この2点を主軸にする。

このため、子供の年齢段階による家族型は、末子の年齢を基準に、就学前(K型とする)、小学生(J型)、中学生以上(S型)の3段階に分ける。主寝室の階による類型は、それぞれ主寝室1階型(1B型)、主寝室2階型(2B型)とする。

なお、分析の主眼はあくまでも一時的収納過程ではあるが、その発生過程を追う上で、類縁の放置過程、あるいは公室ゾーンの収納空間が貧弱なために起こる定常的な収納の問題にも必要に応じて論及する。

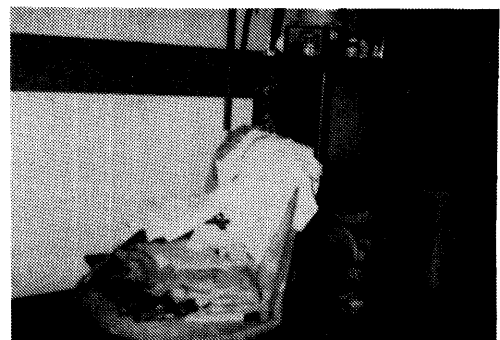
5. 2 衣服再生・更生家事作業における一時的収納

【洗濯物整理について】(図－2 参照)

多くの家庭では午前中に洗濯を終えて干し、14:00～18:00の間に取り込まれる。特に16:00～17:00の夕食準備にさしかかる時間帯にピークがある。取り込まれる場所として最も多いのは居間であるが、主寝室1階型では主寝室が次いで多く、主寝室2階型では客間が多目に出ており、他の生活行為にとって邪魔になりやすい居間を避ける傾向もみられる。

また、取り込んですぐたたむものが過半を占めるものの、しばらくそのままにして後でたたむという一時的収納に結び付くケースもかなり多い。後でたたむ場合の時間帯は、全般的に、諸家事が一段落する夕食後が多く、次いで夕食前である。ただし、食事の準備と共に小さな子供の面倒もみなければならないK型では、他の家族型に比べて夕食前が少なく、その分、子供から解放される就寝前が増える。

洗濯物をたたんだ後の処理については、すぐにタンスなどに収納するものが大多数を占めるが、後で収納するものも少なからずみられる。その時間帯は、どの家族型においても就寝前が最も多く、中には翌日に持ち越される場合すらみられる。それまでの間、写真－2に示すよ



写真－2 たたまれた洗濯物の一時的収納状態

うに、他の生活行為の邪魔にならないように、最寄りの適当な場所にまとめて置かれている。

【アイロンがけについて】

アイロンがけは洗濯物を取り込んだ室で行われる傾向が強いが、たたんですぐにアイロンがけを行うものは少ない。後で行うまで室の片隅などに置かれている。また、作業後、使用した用具をすぐに片付けるのは比較的少数で、しばらく室の片隅に寄せておくケースが大半を占める。

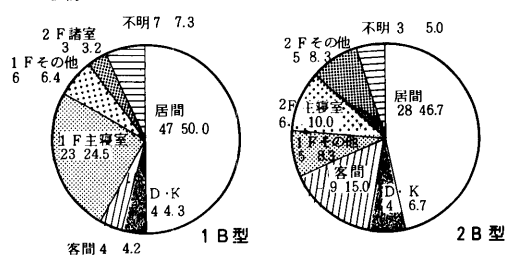
アイロンがけの時間帯は、9:00～12:00の午前型(14%)、12:00～20:00の午後型(33%)、20:00～22:00の夜型(42%)におおむね分かれている。午前型は前日からの持ち越しであると思われるので、最も多い夜型と合わせて約6割の家庭において、洗濯物を取り込んでアイロンをかけるまでの間に一時的収納の発生の可能性があるともみてよい。なお、K型では就寝前の22:00以

降、J型およびK型では20:00～22:00の夕食後にピークがあるのは洗濯物整理の場合と同様の傾向である。なお、K型において最も多忙と思われる16:00～18:00に一つの山がみられるが、これは後の時間帯における他の諸家事の遂行上、洗濯物関係の一連の作業を夕食前までに終えておこうという傾向ともとれる。このことから、家事作業遂行の型には、いわば集中型あるいは逐次型ともいべきタイプと、周期型あるいは並行型と呼んでよいタイプとに大きく分かれることがうかがえる。この点は家事遂行型についての設問からもわかる。(図-3中の家事作業遂行型のデータ参照)ただし、これは、常にどちらかのタイプで家事が遂行されているとみるよりも、作業内容によってそれぞれ使い分けられているものと解釈するべきであろう。

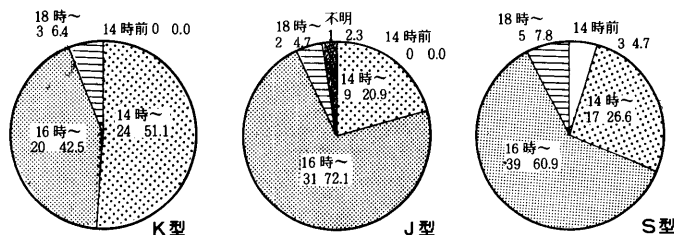
【クリーニングの外注について】(図-3参照)

クリーニングの外注に出すまでの間の一時的保管場所

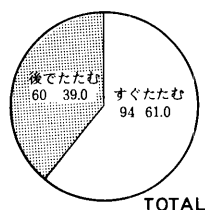
■ 洗濯物を取り込む場所



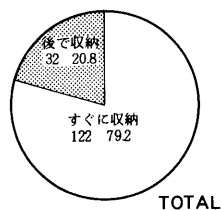
■ 洗濯物を取り込む時間帯



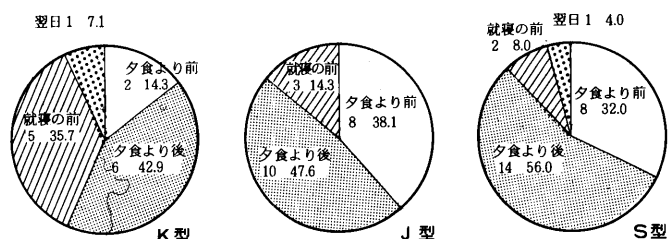
■ すぐたたむか



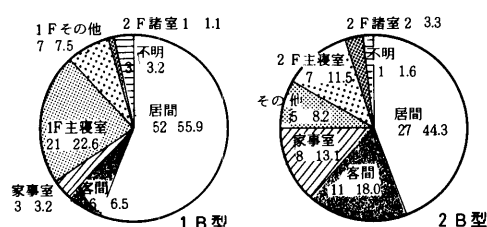
■ すぐに収納するか



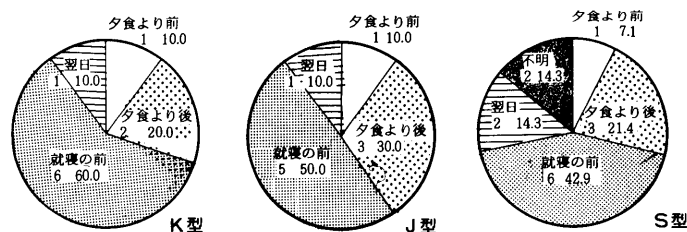
■ 洗濯物を後でたたむ場合の時間帯



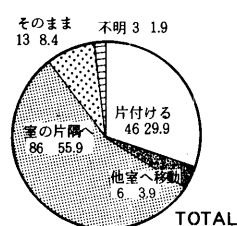
■ アイロンがけを行う場所



■ 洗濯物を後で収納する場合の時間帯



■ アイロン作業後の用具の処理



注 1B型:主寝室1階型
2B型:主寝室2階型

K型:末子が就学前
J型:末子が小学生
S型:末子が中学生以上

■ アイロンがけを行う時間帯

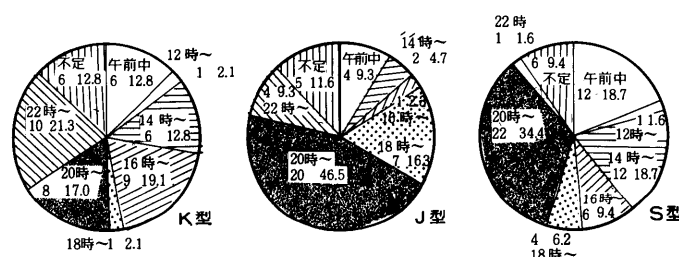


図-2 衣服再生・更正家事作業における一時的収納の発生過程(1)

として決まった場所を設けているものが半数程度みられる。その場所は、共通して洗面所が多いが、その他に主寝室1階型では主寝室が、主寝室2階型では客間があてがわれている。また、クリーニングから戻ってきた後、必ずしもすぐにタンスなどに収納されず、いったん最寄りの場所に一時的に保管される場合もかなりみられる。その一時的保管場所としては、主寝室1階型では主寝室、次いで居間が多く、主寝室2階型では客間があてがわれることが多い。主寝室1階型における主寝室、主寝室2階型における客間は、それぞれクリーニングの行きと帰りのステーションの役割を果たしている。先述の洗濯物整理の場合などとも関連して、主寝室が衣服関係の収納拠点になりやすいことはある意味で必然的とも考えられるが、それは主寝室が1階にある場合について言えることであって、2階にある場合にはその役割を果たすことが無理であり、これに代わる空間が公室ゾーンである1階に必要であることが示唆されているとみるべきであろう。実態では、普通あまり使用されることのない客間がその格好の場所となっているわけである。

なお、後で収納される場合、衣服関係の他の家事が遂行される際、例えばアイロンがけの後に一緒に収納されると推察されるが、この点に、同種の「仕事の単位」とともに家事が遂行されていることがうかがえる。つまり、

当該の単位に着手するまでの間、それに関連するものは一時的収納状態に置かれているわけである。

【裁縫・繕い物について】

戸建て住宅ではこの項目の調査は行っていないが、参考のため集合住宅の調査結果を記す。

裁縫・繕い物は、洗濯物整理やアイロンがけと同じく居間などの公室ゾーンで行われることが多いが(52/67, 77.6%), 作業後、用具をすぐに戻さないことはあまりなく、大半がすぐ片付けている。ポータブルミシンなどのようにややかさばるもので他の生活行為にとって邪魔になりやすいためであろうか。ただし、後で片付けるものも多少あり、その場合、元に戻すまで、最寄りの邪魔にならない所にいったん移動しておくことが多く、そのままにしておくケースは少ない。

5.3 夫婦の更衣および衣服の収納のされ方からみた一時的収納(図-4)

【衣服の基本的収納場所】

主寝室が1階にある場合(94/154例)、夫婦の衣服の基本的な収納場所(季節はずれの物を除く)としては例外なく主寝室があてがわれている。一方、主寝室が2階にある場合(60/154)では、衣服収納場所が2階にしかないものは比較的少ない。むしろ、①1階にあるもの、

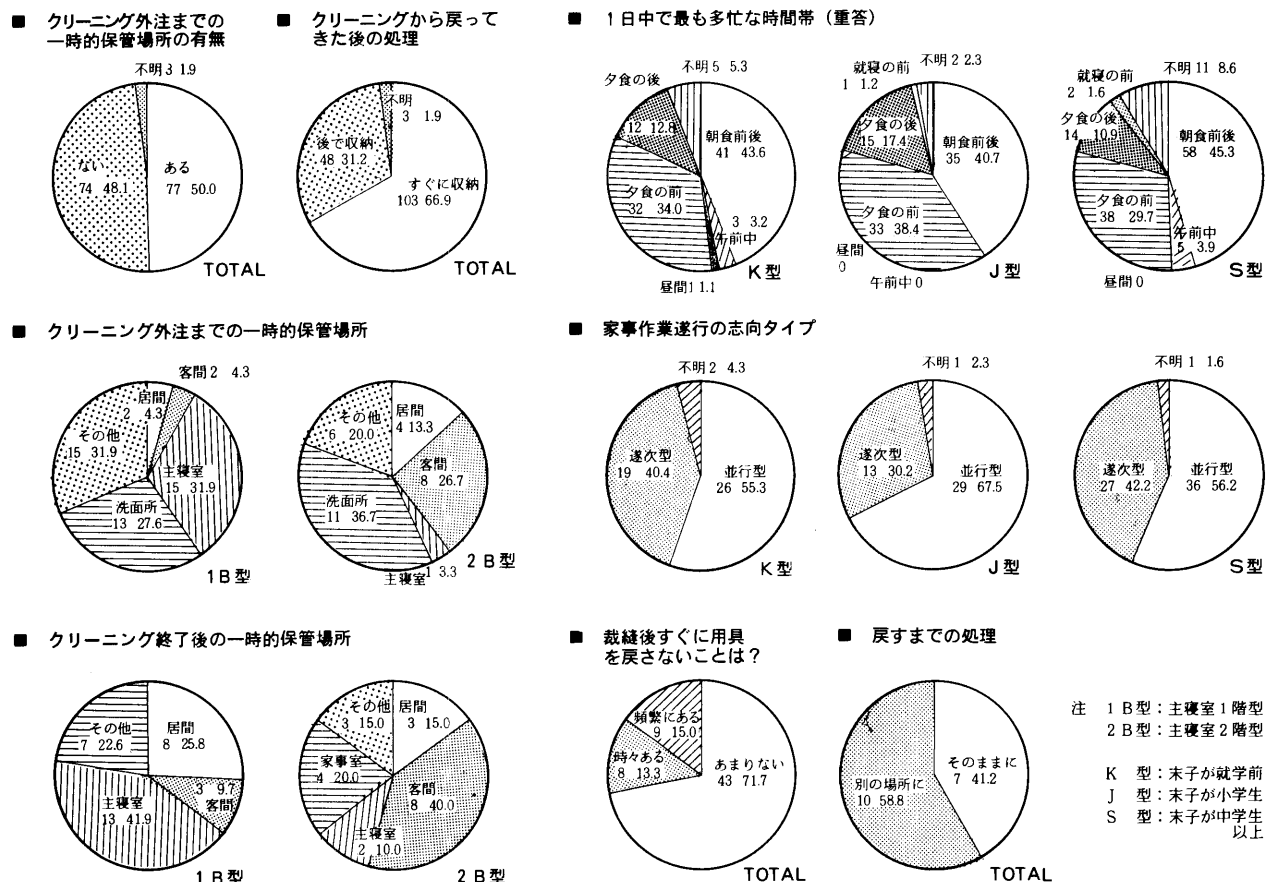


図-3 衣服再生・更正家事作業における一時的収納過程(2)および家事遂行タイプ

② 1, 2階の両方にあるもの、を合わせて1階に収納場所を持つものが大半を占めている。このうち前者は、2階に本来の収納場所を持つと共に、公室ゾーンである1階にも日常の普段着を対象とする副次的収納場所を設けているタイプであり、生活の必要上から一時的収納をより積極的に捉え空間的に対処したものと言える。後者は、主寝室が2階でありながら衣服の収納はすべて1階で行うタイプであり、1階と2階に分かれる生活上の不便を、主たる生活の場を1階にまとめ、単純化することによって解決を図っているものと考えられる。いずれにせよ、主寝室が2階にある場合には、衣服の収納の仕方に相当の工夫を余儀なくされることは間違いない。実態では、その場所として、大半において客間が、次いで居間、家事室が利用されている。すなわち、日常的使用の少ない客間が格好の保管・収納場所とされているわけである。

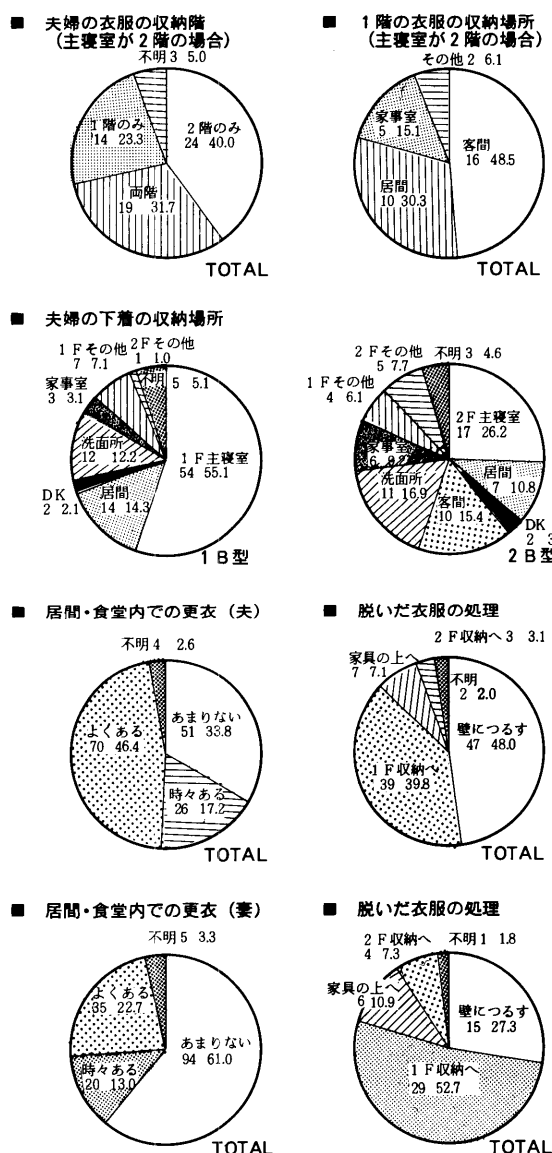


図-4 夫婦の更衣および衣服の収納のされ方

【下着の収納場所】

下着の収納場所としては、主寝室1階型では、やはり主寝室に置くのが際立っているが、主寝室2階型では、主寝室のほか、洗面所、客間、居間、家事室などの1階の諸室に分散している。浴室との関係で1階に置く必然性があるにもかかわらず、適切な場所がないことによる不安定さが顕著に出ている。

【公室ゾーンでの更衣】

公室ゾーンでの更衣の有無をみると、夫の場合、あまり無いとするものは少数であり、大半が居間・食堂で着替えを行っている。脱いだ衣服は、最寄りの壁につるすケースが多数であり、きちんと収納場所になおす場合を上回っている。一方、妻の場合にも居間・食堂内での更衣がみられるが、夫に比べるとかなり控え目である。また着替えをした後はきちんと収納するものが多い。といっても、壁につるしておいたり家具上にかけておくケースも決して少なくはない。

以上のように、1階に主寝室がある場合は、更衣および衣服収納が比較的安定的になされているが、主寝室が2階にある家庭では極めて不安定であり、公室ゾーンである1階におけるしかるべき空間的対応の必要性を示唆している。しかも、この収納空間は単に一時的収納に対応するものとしてではなく、半ば定常的な収納空間としても位置付ける必要があろう。

5. 4 居間・DK内の行為に伴う一時的収納

(図-5)

【暫定的な片付け行為】

居間・食堂は家族の共用空間で使用頻度も高いので多種多様な物が散らかりやすい。生活行為の展開において邪魔になるそれらの物を取りあえずひとまとめにし体裁をとりつくろふ行為が半数の家庭においてみられる。特に子供の年齢が低いK型、J型に顕著である。

【他室からの物の持ち込みとその処理】

居間・食堂の中に置かれている物の中には他室から持ち込んだ物が多く含まれているが、それが室内における物の散乱を増幅させている。その処理については、そのつど片付けるものが多くはあるが、ある程度まとめて片付けるという合理的志向を持つものもかなりみられ、特に子供が小さい家庭ほどその傾向は強くなる。

【購入品の処理】

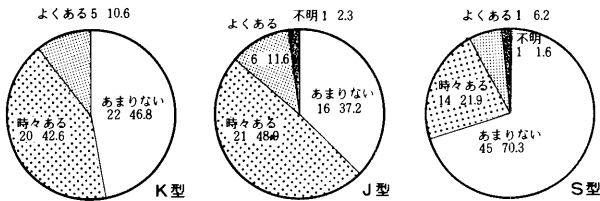
買い物から帰って来た後、購入品をすぐにしかるべき所に収納せずに、床の上や食卓の上に放置したり最寄りの場所に一時的に置いておくケースが大半の家庭でみられる。種類としては、食料品が圧倒的に多く、次いで衣料品、ティッシュペーパーなどの日用品である。食料品はほぼ例外なく食堂あるいはDKに、その他は食堂・DKおよび居間に置かれている。データには現れていないが、

観察調査によると、ティッシュペーパーの買い置きなどかさばるものが客間に置かれているケースも数多くみられた。

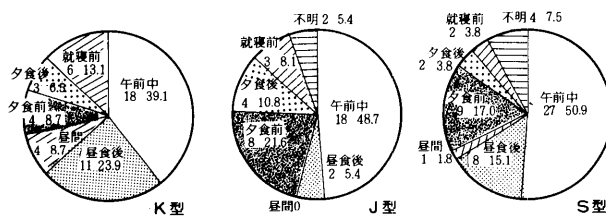
【不意の来客時の処理】

不意の来客が訪れたとき室内が散らかっていて困った

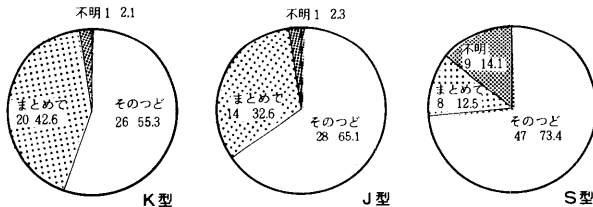
■ 散らかった物を一時的にとりまとめることはあるか



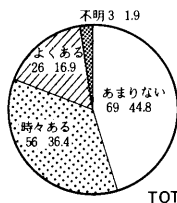
■ とりまとめて片付ける時間帯



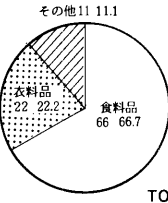
■ 居間・食堂に他室から持ち出してきた物の処理



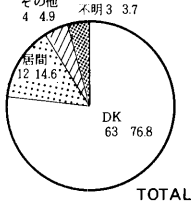
■ 購入品の一時的放置



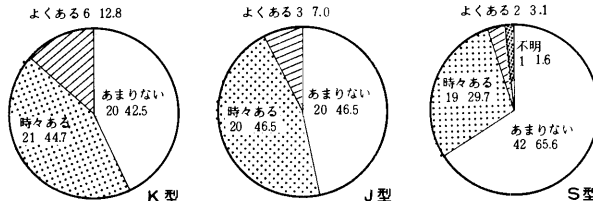
■ 放置する物の種類



■ どこに置いておくか



■ 不意の来客時、室内が散らかっていて困ったことはないか



■ その散らかっているものの処理

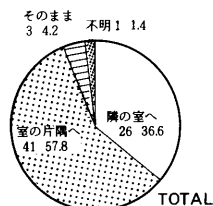


図-5 居間・DK内での行為に伴う一時的収納の発生過程

経験を持つものが半数程度みられるが、これも子供が小さい家庭ほど多い。その際、仕方なくそのままにしておくというケースは極めて少なく、手短かにまとめて部屋の片隅に寄せたり、隣室にほうり込んで体裁を整える傾向が明らかである。

【居間・DK内における一時的収納場所】(図-6)

上述のように、居間やDK内で散らかる種々の物を生活行為の邪魔にならぬように一時的・暫定的に片付ける行為が随所にみられるが、それらの物を取りあえずまとめて置く場所を居間およびDK内に持っている家庭が大半である。観察・面接調査によると、あらかじめどのように決めている場合も少なくはないが、むしろ、習慣的に形成された場合が一般的である。それは、サイドボードの上であったり、長らく使っていないピアノの上、家具と壁のすき間、あるいは出窓の上などである。さらに進んで、専用の収納棚やテーブルを設けているケースも少なからずみられる。(図-8, 9中の写真参照)

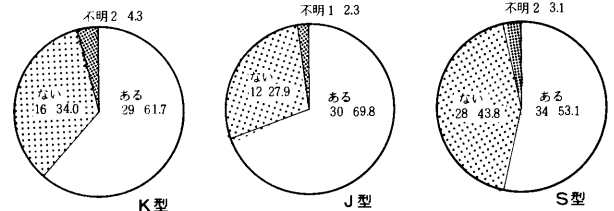
5.5 子供の生活行為における一時的収納

ここまでの分析を通して、公室ゾーンにおける物の散乱の大きな原因の一つが子供の生活行為あるいはそれに関連する行為にあることがうかがえたので、その点をもう少し詳しく考察してみたい(図-7)

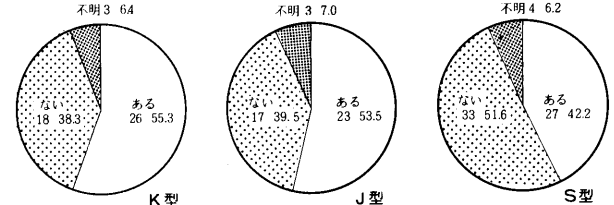
【衣生活関係について】

子供室はほとんど2階に設けられているが、衣服の収

■ 居間における雑多な物を置いておく場所の有無



■ 食堂における雑多な物を置いておく場所の有無



■ 諸雑用用品が収納されている収納・物入れの場所

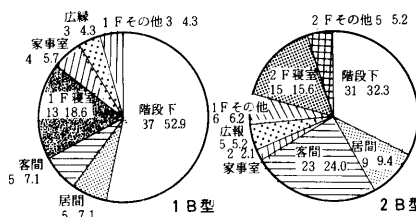


図-6 居間・DK内における一時的収納場所について

納場所については年齢差が著しい。K型の場合は主とし1階に、J型の場合は2階のみと1階にもあるものが半々程度、S型になると2階のみに落ち着く。成長に伴う生活拠点の移り変わりを見事に反映しているが、子供の年齢が低いほど公室ゾーンにおける衣服収納への配慮が欠かせないことを如実に示している。

1階に収納場所を持つ場合の具体的な場所としては、諸室に分散しており主たる傾向が見いだせない。主寝室が1階にある場合は、主寝室が夫婦用と共に子供の衣服収納場所となりやすいが、そうでない場合は、あえて居間、客間などに置かれることになる。先述の夫婦の場合では客間が多かったのに対し、子供ではやや居間が上回る傾向がみられるのは、空間計画上興味深い特徴である。

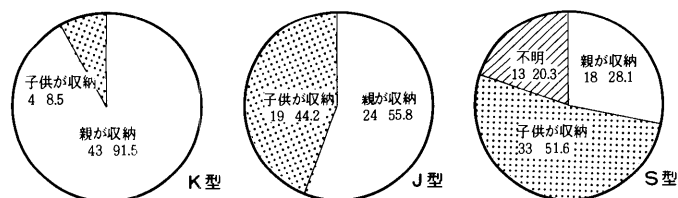
また、下着の収納場所についても、上記の諸点と類似の傾向が認められる。ただし、成長に伴う子供室への集中化は、一般の衣服ほどには顕著ではなく、1階の諸室

に依存する傾向が強く残る。

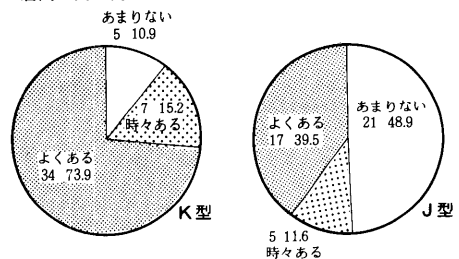
このように衣服の収納場所が1階に設けられているのは、1階で更衣する機会が多いことの反映であると思われるが、事実、居間・食堂内で更衣するケースが多い。しかし、これもまた成長に伴い次第に少なくなる傾向がみられる。また、居間・食堂内で脱いだ衣服（再着用するもの）の処理については、K型の場合は親が面倒をみる人が多いためであろうか、決められた収納場所に設ける傾向が強い。J型になると一定した傾向がみられず、収納場所に納めるものに劣らず、出し放しにして置いておかれるケースが多い。いずれにしても、公室ゾーンである1階に子供の衣生活に対する空間的配慮が求められていることは間違いない。

この点は、2階の子供室に衣服収納場所が定まっている場合にも言える。例えば洗濯を完了した衣服をタンスなどに収納する場合、成長するに伴い子供が自力で行う

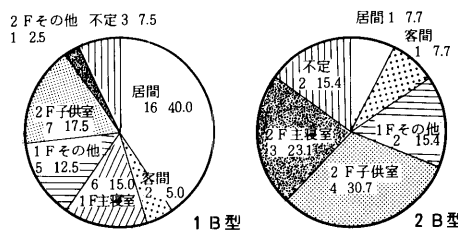
■ 子供の衣服を洗濯した後の収納を誰がおこなうか



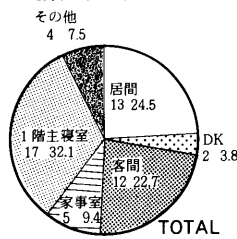
■ 居間・食堂内での更衣の有無（子供のみ）



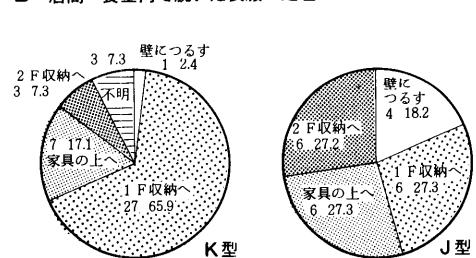
■ 子供が収納する場合の受け渡し場所



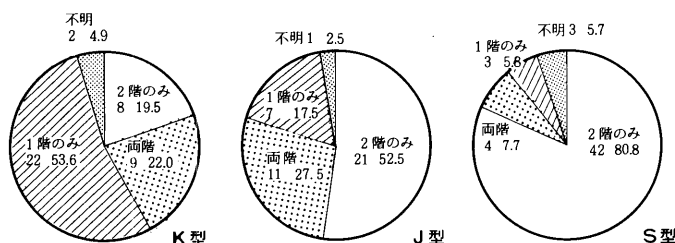
■ 子供室2F・衣服収納1Fの場合の衣服収納場所



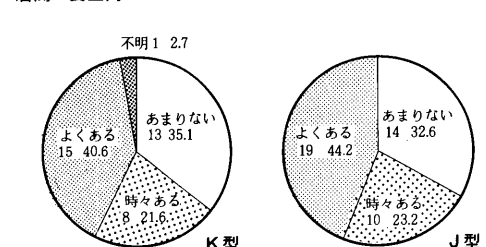
■ 居間・食堂内で脱いだ衣服の処理



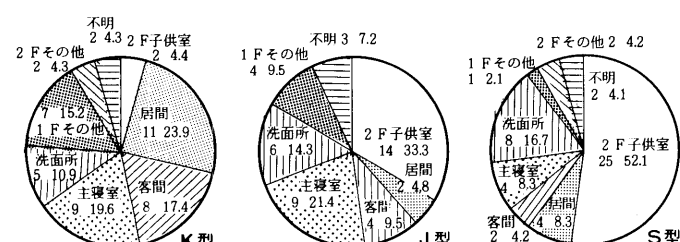
■ 子供の衣服の収納階（子供室が2階にある場合のみ）



■ 居間・食堂内でのカバン・ランドセルの放置の有無



■ 子供の着衣の収納場所



■ 居間・食堂内に玩具が散らかることへの対処

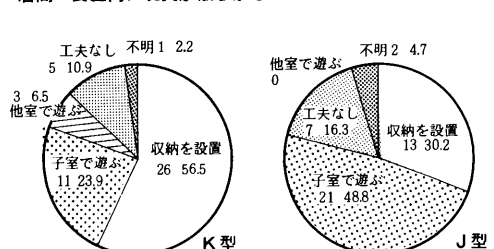


図-7 子供の生活行為における一時的収納の発生過程

割合が高くなるが、その受け渡し場所の設定は重要である。特に主寝室が1階の場合は親がついでに持ち上げる機会もないのでなおさらである。今回の調査では、受け渡し場所として、主寝室1階型の場合は居間が多く用いられており、主寝室2階型では親がついでに2階へ持ち上がるためか、子供室（ドアの外か入口）または主寝室が多くみられる。

【衣生活以外の生活行為において】

学校あるいは幼稚園から帰宅した後、ランドセルやカバンを自分の部屋に持ち帰らず、居間・食堂内に放置する傾向が顕著にみられる。

また、居間・DK内で子供が遊び、玩具を散らかし放しにすることはどの家庭でもほぼ例外がないが、これへの対策には大きく分けて二通りの傾向がみられる。一つは収納場所を設置するという空間的な方法によるもの。他の一つは、居間回りで遊びを規制し、極力、子供室で遊ばせるという厳しいしつけによる方法である。

写真-3は、収納空間と言えるものではないが、居間および客間の中に設定された玩具類の集結場所である。このような自然発生的な現象は、一時的収納空間の必要性と共に、その空間の在り方をほうふつとさせるものがある。

6. 一時的収納現象の空間的諸形態

以上のように、諸生活過程に一時的収納が発生しており、また、公室ゾーンに適切な収納空間が設けられていないことから、種々の問題が生じている。一方、居住者

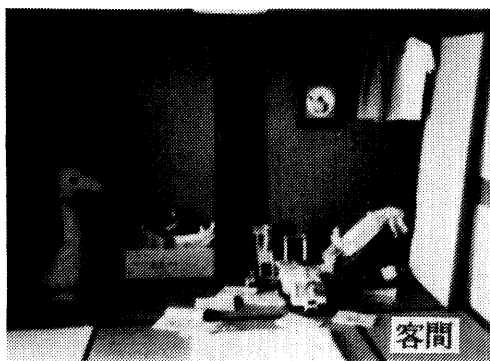
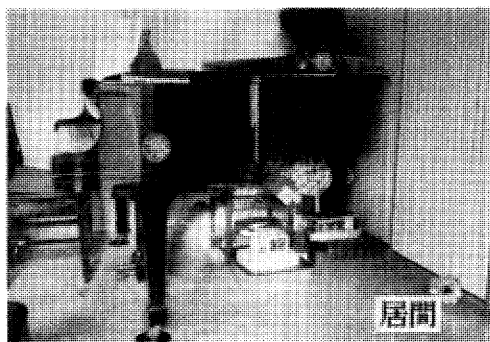


写真-3 玩具類の一時的収納状態

としてもこれを拱手傍観しているわけではなく、先述のように空間的にいろいろな工夫を施し、一時的収納の拠点らしき場所やそれに伴う生活ルールを自らつくり出している。今回報告を割愛した集合住宅の場合を含めて、その空間的形態を、発生する場所を主たる指標として類型化すると次のようになる

- 1) 居間・コーナー型
- 2) 客間利用型
- 3) DK・コーナー型
- 4) 余室利用型
- 5) 専用物入型

また、このタイプによって、そこに置かれる物の種類も異なっている。すなわち、その物が置かれても大して違和感を感じさせない所を選んで置かれているわけであるが、おおむね1)から5)の流れで、比較の見苦しくないものから、徐々に見苦しいものに向かう段階性が認められる。それは収納形態の「露出」→「隠す」の段階性に対応している。

図-8, 9に、これらの実例をパターン化している。計画的に一時的収納過程に対応する収納空間を設定する場合の手がかりになろう。ただし、実際の空間の設定にあたっては、居住者からみた一時的収納行為に要する手間や回りくどさ（迂回性）などに対する許容度、および物の性格からみた親近性と排他性について今少し厳密な検討を加える必要がある。ここでは、あくまで、概略のイメージを提示したに過ぎない。

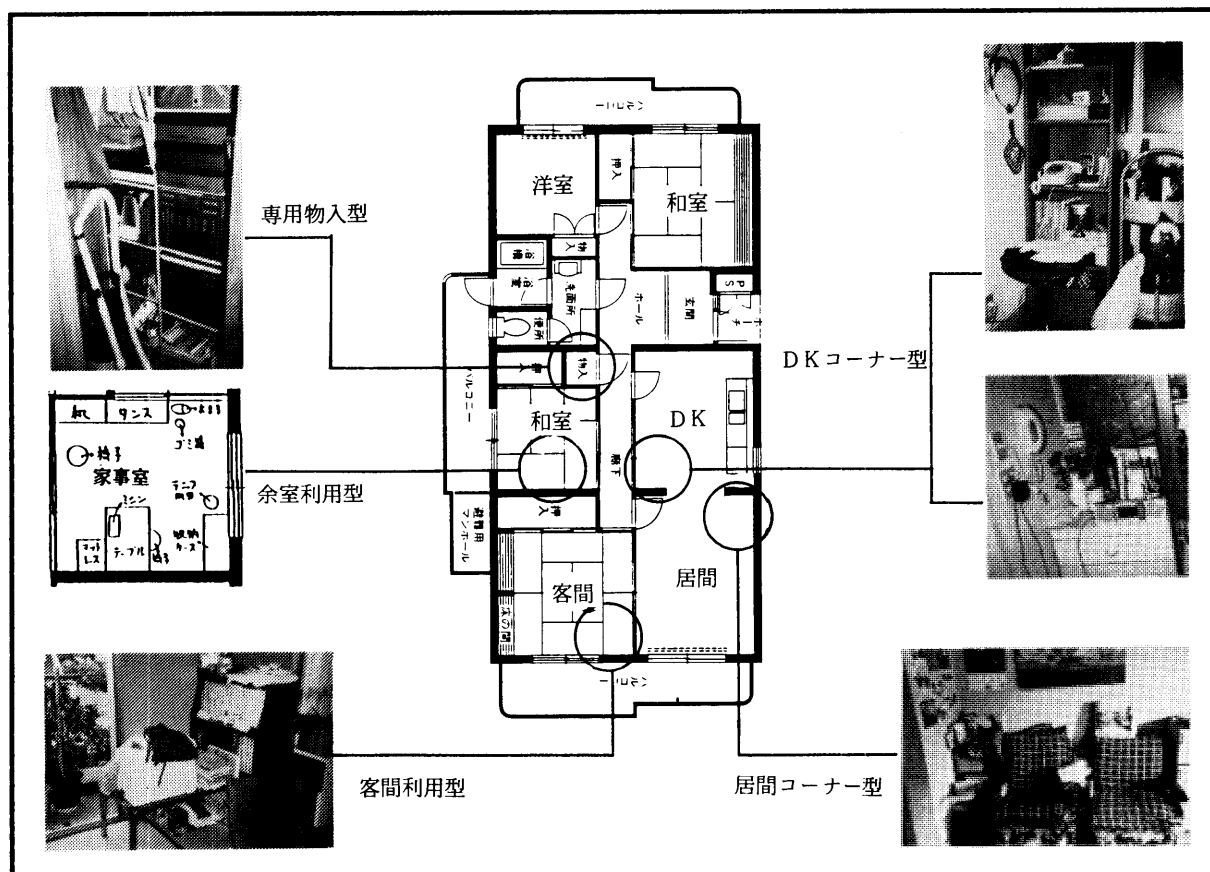
7. まとめ

以上、公室ゾーンを中心として展開される諸生活過程の中に、一時的収納過程が頻繁に発生していることを明らかにすると共に、一時的収納過程に対応する空間的配慮の方向を提示した。

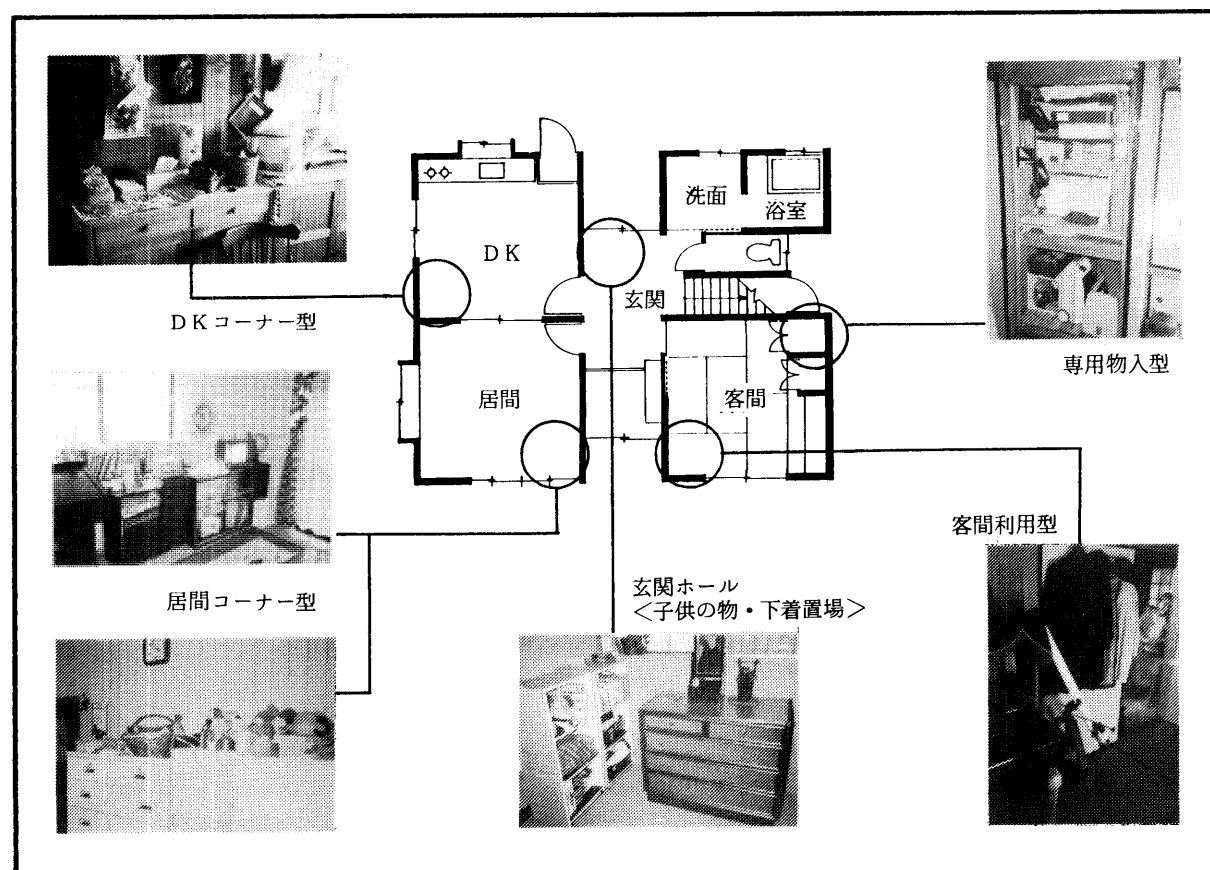
この調査結果をもとに、その空間像を粗描すると以下のようなになる。

- ① 高い頻度と速度の場面転換に円滑に対応できる袖舞台のようなもので、生活空間に半ば開放的に隣接していること。
- ② 一方、多様な物が未整理・未整頓で置かれている状態が、生活空間から見透かされない程度の閉鎖性が要求される。
- ③ 更に、その場に暫定的に収納された物の整理および処理作業、また家事行為を中心とする関連諸作業の展開が可能な広さとしつらえを有していること。
- ④ 加えて、それら関連諸作業に要する用具用品の固定的な収納場所にもなりうること。

このような機能的条件からは、すぐに家事室が想起されるであろう。確かに、結果的に家事室と類似した空間



図－８ 居住者の工夫による一時的収納の空間的パターン（集合住宅の場合）



図－９ 居住者の工夫による一時的収納の空間的パターン（戸建て住宅の場合）

になることは十分に予想される。しかし、従来の家事室は、家事行為の合理化・集中化に重点がおかれ、物の集結・整理・収納の場としての位置付けが相対的に希薄であり、生活行為の秩序化にとって有しているこのような積極的な役割が軽視されてきた。「家事室を設けてもただ物の置場になるだけで、結局、家事室は有用ではない」とする批判的論調がまさにこれを逆の立場から裏付けている。しかし、家事室が物の置場になりやすいことは必然的な現象であって、むしろそのような使われ方を十分に考慮した空間が必要とされるのである。そのような意味では、本研究の成果は家事室を公室空間との関係でより合理的で汎用性の高い空間として形成するための手立てともなろう。

ところで、前章までの考察からは、一時的収納過程に対応する収納空間を公室ゾーンの中で単一の空間としてまとめうるかは疑問が多い。先述のように、居住者からみた一時的収納にかかる手間や迂回性に対する許容度と、物の性格からみた親近性・排他性の度合いに応じて、あまり多くならない程度で複数の空間を設定することも考えられる。それは、最もてっとりばやい家具的な方法から固定的な建築空間までの何段階かの方法を設定しうる。これらの点については、さらに引き続き追究したいと考えている。

〈研究組織〉

主査	上和田	茂	九州産業大学講師
委員	江上	徹	同上 助教授
	宮崎	勲	同上 研究補助員